

## 体験！発見！ジオパーク(マリンスポーツ編)

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動をととして、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

#### ○ 実施期間

令和2年8月11日(火)～令和2年8月13日(木) 2泊3日

#### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 20名/20名

#### ○ 活動プログラム

8/11(火)	8/12(水)	8/13(木)
9:30 高知方面迎え出発	6:00 起床	6:00 起床
10:00 徳島方面迎え出発	7:30 朝食【食堂】	7:30 朝食【食堂】
12:15 海浜活動センター着	8:30 自然の家発	8:30 自然の家発
12:20 開講式	10:00 白浜海水浴場着	9:00 海浜活動センター着
12:30 昼食【弁当】	11:00 海上アスレチック体験	9:45 SUP(室戸岬新港とろむ)
13:30 スノーケリング (室戸岬新港とろむ)	12:00 昼食【弁当】	11:45 海浜活動センター着 片付け・着替えなど
16:30 海浜活動センター発	13:00 海水浴	12:15 昼食【弁当】
17:00 自然の家着 入所オリエンテーション	15:00 白浜海水浴場発	13:15 閉講式
17:45 夕食【食堂】	16:30 自然の家着	13:30 海浜活動センター発
19:00 暗闇探検	17:45 夕食【食堂】	15:30 徳島方面最終下車
20:00 入浴	20:00 入浴	16:15 高知方面最終下車

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

開講式後、グループに分かれて昼食を取り、午後の活動であるスノーケリングの準備を行った。

初めに、スノーケリングで使用する道具の正しい使い方について学習した。特に、スノーケルマスクについては、バディで互いに確認し合うことで、正しい装着の仕方を知ることができた。その後、海の駅とろむへ移動し、スノーケリングの活動を行った。バディで一緒に行動し、とろむ港内にいる小さな魚やウニ、フグといった様々な生き物を観察することができた。スノーケリングの体験を通して、バディで楽しみながら活動している姿が多く見られた。

夕食後は、夜間の活動として、暗闇探検を行った。グループに分かれて真っ暗な道を歩いていると、虫の音や牛の鳴き声をかすかに聞くことができた。星を見る丘に到着して辺りを見渡すと、綺麗に光る室戸の町を見ることができた。また、活動開始直後は曇っていたが、徐々に晴れ間も見え、星空を観察することができた。



### < 2日目 >

2日目は、東洋町の白浜海水浴場で活動を行った。午前中は、四国最大級の海上アスレチック「Beach Hopping」に参加し、スライダーやトランポリンなどの遊具を利用した。バランスをとるのが困難なため、何度も落水していたが、楽しみながら遊具に挑戦する姿が多く見られた。

午後は、グループごとに海水浴を行い、大きな波に乗ってタイミングよく跳んだり、パディと一緒に泳いだりして楽しむことができた。



### < 3日目 >

最終日は、海の駅とろむでSUPの活動を行った。今年度は、ソーシャルディスタンス確保のため、1艇につき4名を定員として、少人数グループでSUPの活動に取り組んだ。

初めて乗るメガSUPに驚きながらも、友達と楽しみながら挑戦する姿が見られた。最初は上手にバランスをとることができず、安定して漕ぐことができなかったが、練習を重ねることで、パドルの正しい使い方やバランスのとり方を自分なりに習得し、SUPを上手に漕艇できるようになった。

3日間を通して、多くのマリンスポーツを体験することで、仲間との絆を深めることができた。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・スノーケリングで、たくさんの魚を見ることができた。
- ・海上アスレチックに行くことができて嬉しかった。
- ・ビーチホッピングで何回も海に落ちたけど、とても楽しかった。
- ・SUPには初めて乗ったが、バランスをとるのが難しかった。

#### ○ 事業の成果

- ・スノーケリングの活動を通して、海にいる生き物や自然により興味・関心をもつことができるようになった。
- ・海の活動で必要な道具の使い方を正しく学ぶことができた。
- ・海での活動を通して、仲間と協力し、助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・定員をこれまでの半数とすることで、ソーシャルディスタンスを十分に確保しながら活動を行うことができた。

#### ○ 事業の課題

- ・熱中症対策を確実にを行い、水分補給を適宜行えるように、準備する必要がある。
- ・海上アスレチックに参加する際は、職員数を多くすることで安全に十分配慮する。
- ・引き続き、新型コロナウイルスの状況に応じて、感染防止対策を行い、リスクを軽減していく必要がある。